

大橋川通信



2008.03
第23号

刊行/
大橋川コミュニティセンター



上空より大橋川を望む

大橋川改修事業

環境調査一次とりまとめ公表

「環境調査一次とりまとめ」
環境に与える影響を調査

「水環境」「動植物」「生態系」
現状調査と影響予測

国土交通省出雲河川事務所は、平成16年12月公表の「大橋川改修の具体的内容」で示した計画を実施した場合に、大橋川改修が宍道湖、大橋川、中海、境水道の水環境や生物へどのような影響を与えるのか、調査・予測・評価を行い、一次とりまとめとして公表しました。

大橋川改修事業は、「環境影響評価法」でいう「環境影響評価」の対象ではありませんが、汽水環境保全の重要性に配慮し、環境影響評価法の手続きに準じ実施しています。

「大橋川改修に関する環境検討委員会」
技術的助言や指導を行う

環境調査は、科学的データと専門的知識に基づく客観的な評価を行うことが重要であるため、専門家や学識経験者からなる「大橋川改修に関する環境検討委員会」から技術的助言や指導をいただきながら進められています。



大橋川改修に関する環境検討委員会の様子

環境調査は、塩分濃度や典型的な生物の分布、重要な種の確認など、現在の状況を把握した後、大橋川改修による影響を予測します。その結果、「水環境（水質・底質・水利用）」では、塩分以外の項目は変化が小さいと予測され、「動植物」「生態系」では、数種に影響が出るため、生息生育環境の整備や移植による「環境保全措置」を実施することとなりました。

今後、事後調査や、環境監視を続け、環境に与える影響を確認しながら事業は進められます。

閲覧場所のご案内

「大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ」は、旧松江市内では次のところで閲覧できます。

- ・鳥根県庁(斐伊川神戸川対策課)
- ・松江市役所(大橋川治水事業推進課)
- ・大橋川コミュニティセンター

閲覧場所に備え付けの意見書またはメールで3月21日(金)までご意見を受け付けています。詳細は、出雲河川事務所ホームページをご覧ください。

<http://www.izumokasen-mitc.go.jp/>

お問い合わせ先

国土交通省
出雲河川事務所 水環境課
【電話】0853-21-1850(代)

大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ【予測結果の概要】

影響検討の考え方

バックグラウンド

バックグラウンドとは、「斐伊川流域において計画されている関係事業が完成した状態」(A~Dの事業が完成)

佐陀川 計画流下能力断面確保
 中海本庄水域 中浦水門撤去
 西部承水路堤防撤去
 森山堤防開削(60m)
 大橋川改修
 斐伊川放水路 供用
 尾原ダム 供用

影響予測は、次の3段階の状態について実施します。

現況 バックグラウンド バックグラウンド+大橋川改修

ステップ1 ステップ2 ステップ3

予測は各段階で実施しますが、評価は大橋川改修について実施します。

直接改変

河床掘削・河道拡幅

インパクト ● 河床掘削 ● 河道拡幅

環境の変化 ● 浅場の減少 ● 河岸形状の変化 ● 陸地面積の減少

動植物、生態系の変化 ● 水際、浅場の動植物の生息生育状況の変化 ● 魚類の移動性の変化 ● 陸域の動植物の生息生育状況の変化

各生物の主な生息生育環境が改変によってどの程度消失するか予測します。

直接改変以外

流況の変化

インパクト ● 河床掘削 ● 河道拡幅

環境の変化 ● 水位変化 ● 流量変化 ● 流速変化 ● 塩分・水温・富栄養化・溶存酸素・土砂による水の濁りの変化 ● 水底の泥土の変化

動植物、生態系の変化 ● 水際の動植物の生息生育状況の変化 ● 水域の動植物の生息生育状況の変化 ● 魚類の移動性の変化 ● 水利用の変化

改修後の水環境の変化の程度を予測します。

詳細については、「大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ」を閲覧して下さい。



動植物・生態系への影響予測結果

「影響が想定される」予測結果

大橋川改修による河道拡幅によって河岸部のヨシ群落の一部(生育面積の34.4%)や河口左岸の浅場が消失し、**直接改変の予測対象種74種のうち、河口左岸やヨシ群落を主な生息環境とする4種の生育状況が変化します。**

【河口左岸】 ① ヒトハリザトウムシ
 【ヨシ群落】 ② ウデワユミアシサシガメ ③ ヨシダカワザンショウガイ ④ ムシヤドリカワザンショウガイ

動物の重要な種

大橋川改修による河道拡幅によって、**直接改変の予測対象種13種3群落のうち、河岸部に分布する1種1群落と、水田に生息する3種の生育確認箇所の一部が消失します。**

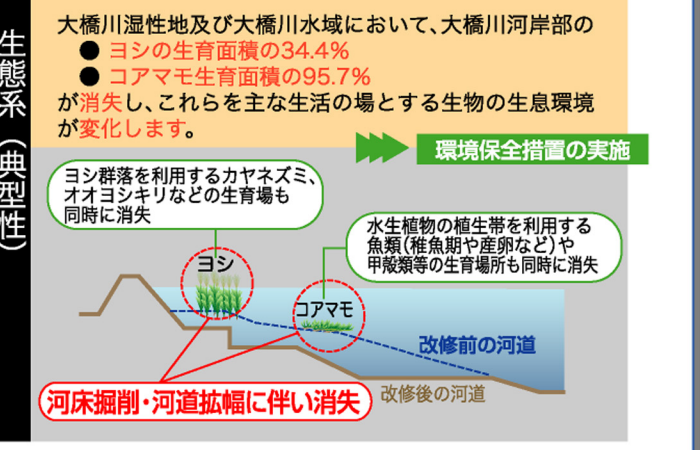
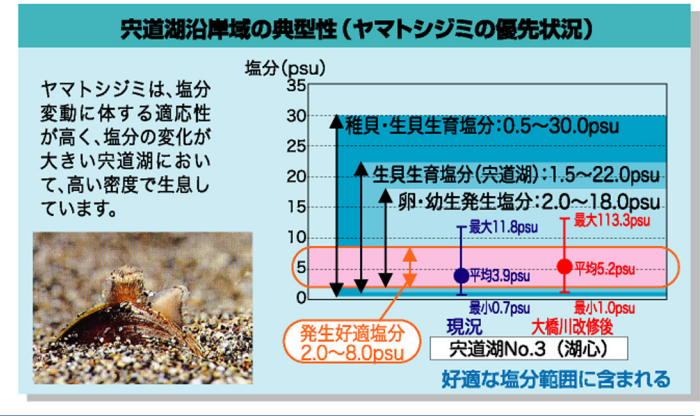
【河岸部】 ① コアマモ ② オオクグ群落
 【水田】 ③ スズメハコベ ④ ヒメシロアサザ ⑤ カワヂシャ

植物の重要な種及び群落

大橋川湿地地及び大橋川水域において、大橋川河岸部の ● ヨシの生育面積の34.4% ● コアマモ生育面積の95.7% が消失し、これらを主な生活の場とする生物の生息環境が**変化**します。

ヨシ群落を利用するカヤネズミ、オオヨシキリなどの生育場も同時に消失
 水生植物の植生帯を利用する魚類(稚魚期や産卵など)や甲殻類等の生育場所も同時に消失

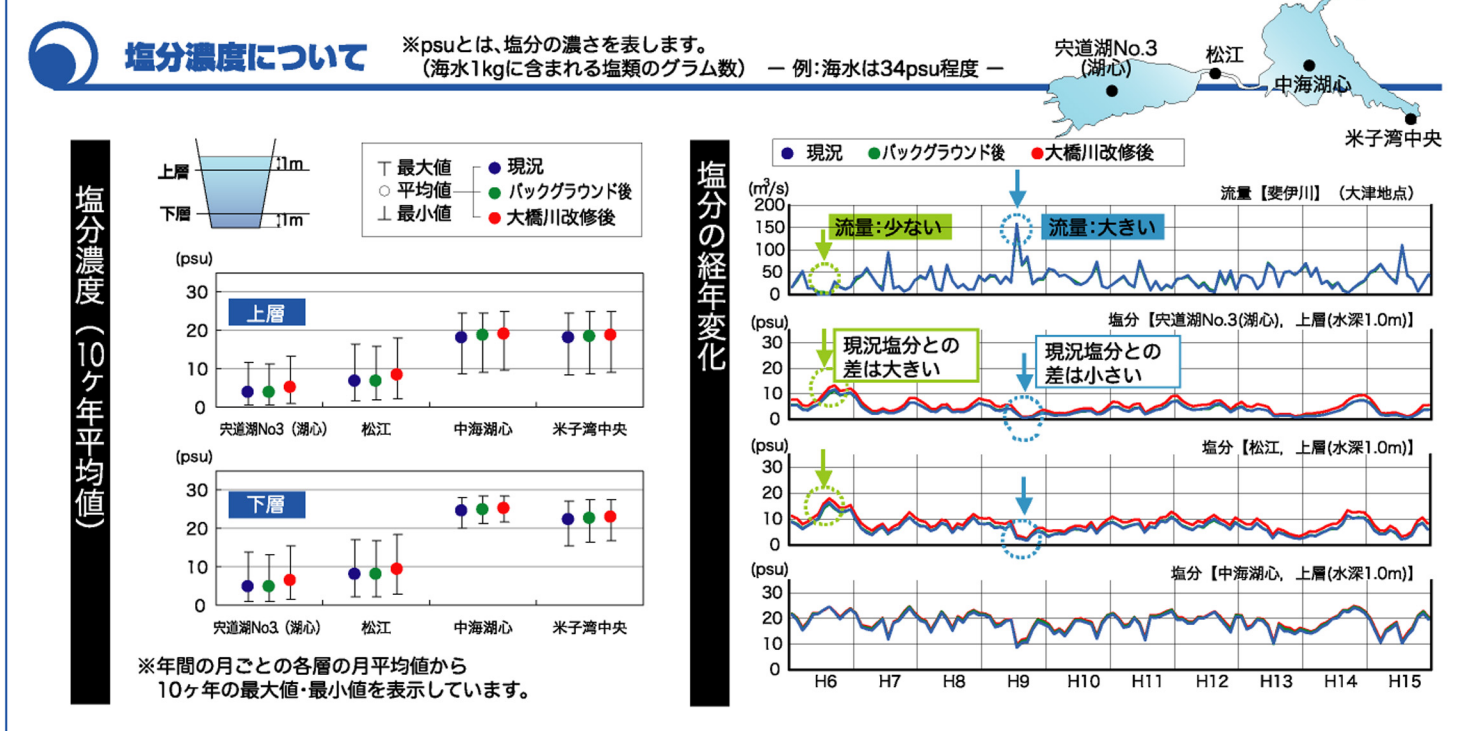
環境保全措置の実施



水環境への影響予測結果

大橋川改修による変化について

水質 (H6~H15 10ヶ年平均)	底質	水利用
塩分: 穴道湖湖心上層で1.3psu、中海湖心上層で0.5psu上昇すると予測されます。 水温: 変化は小さいと考えられます。 富栄養化項目: 変化は小さいと考えられます。 溶存酸素: 変化は小さいと考えられます。 土砂による水の濁り: 変化は小さいと考えられます。	大橋川内: 変化は小さいと考えられます。 中海・穴道湖: 変化は小さいと考えられます。	水利用の状況: 変化は小さいと考えられます。 地下水の状況: 変化は小さいと考えられます。



環境保全措置

影響が想定されるものは保全措置を実施します

環境保全措置の実施箇所については、大橋川中下流を中心に専門家の指導を仰ぎ詳細な位置を決めていきます。

【環境保全措置の実施候補箇所】

大橋川湿地地(剣先川左岸側) ● ビオトープ池の造成候補箇所(ヒメシロアサザ、スズメハコベ、カワヂシャ)
 中海湖畔 ● オオクグ群落の移植候補地
 大橋川湿地地(中の島北岸側) ● ヨシの移植候補地
 大橋川河岸部(西岸) ● ヨシ・コアマモの移植候補地

【措置例】

水深は浅く設定し、湿潤状態を維持する ● カワヂシャ ● スズメハコベ ● ヒメシロアサザ ● 休耕田を模した環境とする

水際は盛り土状とし、波の影響を低減 ● オオクグ ● 中海

浅場を造成し、水際に基盤土砂ごと移植 ● 下流左岸の群落を中心に基盤土砂ごと移植 ● ヨシ ● コアマモ ● 大橋川 ● 現計画の河道

環境監視と事業の進め方

環境保全措置は講じていませんが、特に配慮が必要とされる次の2項目について、引き続き監視していきます

穴道湖沿岸域及び大橋川水域における **ヤマトシジミ及びホトトギスガイの分布状況**
 大橋川における **底生魚の移動状況**

次の2項目について、確認しながら事業を進め、環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合は、**新たな保全措置を含めて対策を検討**していきます

大橋川改修事業が流動(塩分)を始めとする **水環境や動植物及び生態系に与える影響の程度**
 環境保全措置の実施内容の **実現の程度**

祝 尾原ダム「定礎式」が行われます

平成20年3月23日(日) 10時

斐伊川・神戸川治水計画3点セットのうち上流域における役割を担う対策の一つである尾原ダムでは、3月23日(日)に定礎式が挙行されます。これは、ダムの基礎が立ち上がったことを記念するとともに、尾原ダムが将来の永きにわたり治水・利水・環境保全の機能を発揮できるようにダム本体の本格的な

築造に際し、礎石をそなえてダムの永久堅固を願う式典です。

当日はダム堤体部のコンクリート打設面に会場を設営して式典が行われる予定であり、平成22年度末の完成に向け、ひとつの節目を迎えることになります。なお、関係国会議員、島根県知事、松江市長など多数の方が出席の予定です。



※礎石とは、ダムの基礎が立ち上がったことを記念し、ダムの永久堅固を願い、ダム中央に据えられる石のことです。しかし、礎石はダム堤体の中に埋め込まれる為、再び人の目に触れることはありません。

これまでの経緯と進捗状況 平成20年1月現在 斐伊川・神戸川治水計画3点セット

昭和47年7月豪雨により宍道湖周辺で家屋約24,000戸が1週間以上にわたり浸水(松江市街地2万戸浸水)

▶ これを受け、昭和54年11月に「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画の具体的内容」が提示されました。

斐伊川放水路 ▶▶▶ 平成20年代前半目標



呑口部より開削部を臨む

昭和57年9月 出雲市議会が条件付同意
 昭和58年4月 **事業開始**
 平成6年5月 起工式
 ■ 築堤(約8割完了)
 ■ 掘削(約5割完了)
 平成4年6月 大社町議会が同意

大橋川改修 ▶▶▶ 事業着手→中断→再開→検討中

昭和56年3月 松江市議会が最初に同意
 昭和57年 **事業開始** 矢田地区で事業着手 **中断**
 ▶平成14年12月 中海・宍道湖の淡水化中止
 ▶平成13年6月 鳥取・島根両県知事が「大橋川の測量、調査及び設計の実施」確認書に調印

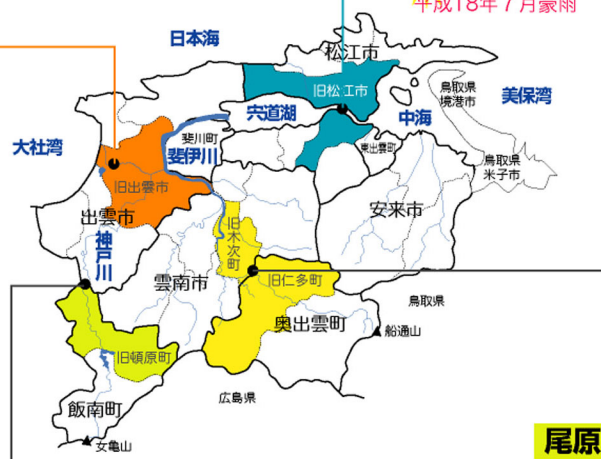


大橋・新大橋間の南岸を臨む

平成16年12月 測量実施
 「大橋川改修の具体的内容」と「松江市のまちづくりの考え方」を公表

水害発生
 委員会にて検討中
 平成18年7月豪雨

(まちづくり)・・・
 「大橋川周辺まちづくり検討委員会」、
 「景観専門委員会」
 (環境)・・・
 「大橋川改修に関する環境検討委員会」



下流よりダムサイトを臨む



下流よりダムサイトを臨む

志津見ダム ▶▶▶ 平成22年度完成目標

昭和58年2月 頓原町長、頓原町議会が同意
 昭和61年4月 **事業開始**
 平成16年6月 本体起工式
 ■ 本体打設(約5割完了)
 ■ 付替道路(約9割完了)
 平成19年5月 定礎式

尾原ダム ▶▶▶ 平成22年度完成目標

昭和60年3月 木次町長、木次町議会が同意
 昭和60年3月 仁多町長、仁多町議会が同意
 平成3年4月 **事業開始**
 平成18年6月 本体起工式
 ■ 本体打設(約1割完了)
 ■ 付替道路(約8割完了)
 平成20年3月 定礎式

大橋川コミュニティセンター

[開館日] 年中無休(年末年始除く) [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] 5台程度
 〒690-0841 松江市向島町134-4
 TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623
 E-mail:comisen@mable.ne.jp
 ホームページ: http://www.mable.ne.jp/~comisen



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

